

会合案内

第2回 公開シンポジウム「核融合炉実現のためのトリチウム研究の新展開」のご案内

科研特定領域「核融合トリチウム」総括班では、下記要領により標記シンポジウムを開催致します。米国サバンナリバー研から D. Green 博士をお呼びし、米国のトリチウム研究の過去未来を、また ITER のトリチウム責任者 M. Glugla 博士からは ITER のトリチウム技術に関して、現状と準備状況を、国内からは日本トリチウム研究の主立った研究者から、トリチウム研究の現状と将来について語っていただきます。同シンポジウムは日本原子力学会春の年会中に開催されますが、プラズマ・核融合学会からも共催をいただいておりますので、どなたでもご参加いただけます。ご関心の皆様には是非ご参加いただき、忌憚のないご意見、ご討論をいただけますようお願い申し上げます。

記

第2回 公開シンポジウム「核融合炉実現のためのトリチウム研究の新展開」

1. 日時：平成 20 年 3 月 28 日 13:00 - 17:00
2. 場所：大阪大学吹田キャンパス 銀杏会館*内 阪急三和ホール
阪急電鉄 北千里線 北千里駅下車徒歩 20 分、
大阪モノレール 彩都線 阪大病院前下車 徒歩 10 分
*銀杏会館ホームページ <http://www.office.med.osaka-u.ac.jp/icho/icho-jp.html>
3. プログラム
 - (1) 文科省科研費補助金特定領域「核融合炉実現のためのトリチウム研究の新展開」設定の目的・意義・その狙うところ 領域代表 田辺哲朗
 - (2) 核融合炉内トリチウム蓄積研究の現状と今後の課題 研究計画 A 班長 上田良夫
 - (3) 核融合ブランケットにおけるトリチウム挙動解明 研究計画 B 班長 深田 智
 - (4) トリチウムの閉じこめ・漏洩抑制に関する研究の現状と課題 研究計画 C 班長 山西俊彦
 - (5) Tritium Science and Technology for Fusion Reactors M. Glugla カールスルーエ研 独国
 - (6) The History of Tritium Processing at the Savannah River Site
D. Green サバンナリバー研 米国
 - (7) 慣性核融合におけるトリチウム技術と高速点火方式による実用炉への展望
乗松孝好 阪大レーザー研
 - (8) トリチウムの環境動態・生物影響研究の現状と課題 柿内秀樹 環境科学技術研究所
 - (9) 総合討論 Tritium science and technology for fusion
4. 主催：特定領域研究「核融合炉実現のためのトリチウム研究の新展開」総括班
5. 共催：日本原子力学会、日本原子力学会核融合部会、プラズマ・核融合学会
参加方法等：参加自由、参加費用無料
6. 連絡先
朝倉 大和
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構・核融合科学研究所 安全管理センター
〒509-5292 土岐市下石町 322-6
：(0572) 58-2321 FAX：(0572) 58-2610 E-mail： asakura.yamato@nifs.ac.jp